

岡山醫學會第382回通常會

岡山醫學會第382回通常會は豫期の通り本月30日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會す定刻に至り緒方庶務主幹開會を報じ直ちに次の講演を開始す。

1. 2, 3 所謂錐體外路系毒の藥理學的 研究追補 (第1報)

生體家兔小腸に對する作用に就て

岡山醫科大學藥理學教室

青 山 勉 君

錐體外路系毒たる Bulbocapnin, Harmin 及び Harmalin の生體家兔腸管運動に對する作用を検せしに、

1. Bulbocapnin は少量及び中等量にて興奮作用を呈し、大量にて抑制作用を發現す。而して本抑制作用後興奮作用を惹起すること多し。本物質に因る小腸興奮作用は主として副交感神經の末梢及び一部は筋の刺戟作用に基き、其の抑制作用は中樞性交感神經刺戟に基因す。

2. Harmin 及び Harmalin は共に少量及び中等量にて興奮作用を發現し、大量にて抑制作用を惹起す。之等2物質の小腸興奮作用は筋の刺戟作用に因り、夫等の抑制作用は中樞性交感神經刺戟作用に由來す。

3. 中樞性交感神經刺戟作用は Bulbocapnin 最も優れ、Harmin 之に次ぎ、Harmalin は前2者に劣るも、筋興奮作用は最も強く、Harmin 稍劣り、Bulbocapnin 最も弱し。Bulbocapnin は之等2作用の外に末梢性交感神經刺戟作用を有するも、Harmin 及び Harmalin は斯かる作用を有せず。

4. 生體家兔腸管運動に於ては Bulbocapnin は Harmin 及び Harmalin の作用を抑制せず。

2. 皮下組織に寄生せる人體有鉤囊 蟲症の供覽

岡山醫科大學北山内科教室

高 原 劍 二 郎 君

人體内に30數箇の囊蟲が皮下組織を主とし其の他筋層中に寄生せる例は我國に於ては極めて稀なり。

患者は高田某なる34歳の男子にして原籍は神戸市、職業は船員なり。

家族歴、既往症に特記すべきことなし。

現病歴、本年2月頃より右肩先の皮下組織内に小豆大の塊を偶然觸知し續いて左右上下肢に發生し數及び其の大きさを増せり。自覺症狀全くなし。遂に顔面胸部にも小豆大乃至豌豆大の塊を生じ本年7月下船治療を受けることとせり。

現症にて特記すべきは以上の米粒大乃至豌豆大の Zyste らし腫瘍を左右上下胸部背部及び顔面の皮下に觸知し得。軟骨様彈力硬にして壓痛なく他動的に移動性あり炎衝を認めず。且之等の腫瘍は血管系淋巴管系と排列上何等關係を有せず(供覽) 肝、脾臟を觸れず。

糞便検査にて蛔蟲卵を少數認むる外異常なし。

尿検査、血液検査に異常なし。

剔出したる囊腫は 1.2 cm × 0.6 cm 重さは 0.55 g なり。

外側に厚き結締纖維複膜を有し、2, 3 の血管分布せり。此被膜に次で半透明の膜より成る囊あり透明無色の水様液之に充盈す(供覽)。この囊の内面の側壁の中央部或は多少一方に偏して帽針頭大乃至半米粒大の乳白色の物ありて囊の縦軸に向ひ直角或は僅に斜めに垂下するを透見し得。尙ほ外側の被膜と囊膜との間には何等應着なきものの如く

其の間に多少の水様液ある如く見ゆ。

顕微鏡的所見（供覧）。

外側の厚き被膜を棄て囊膜中の囊液を出し囊膜と乳白色の物體とを連続切片となし「ヘマトキシリン・エオジン」にて染色し鏡檢するに有鉤條蟲の

幼蟲の頭節を發見したり。即ち4箇の吸盤の中に額嘴あり口の周圍に鉤29箇の断面を見たり。

右終りて午後5時閉會す。當口の來會者は20餘名なり。

◎ 岡山醫學會第383回通常會

同會は本年10月21日午後4時より岡山醫科大學に於て開會の豫定なり